

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

**\* 口径 26cm の GRUBB のレンズはスペクトロヘリオグラフの対物レンズであった**

アーカイブ室新聞 347 号に「天文機器資料館に展示の口径 26cm のレンズに GRUBB の名盤があった」という記事を書いた。この記事を読んだ天文学史研究家の佐藤利男氏から、「このレンズはサイデロスタットと一緒に使われたレンズではないか？」という電話をいただいた。国立天文台に残されたサイデロスタット（写真 1）については、アーカイブ室新聞 271 号（2010 年 1 月 5 日）に「太陽分光写真儀室（オバケ）のサイデロスタットと Ca K 線分光器について」という記事がある。この記事でもふれたがサイデロスタットには非常に読みにくい名盤が付いていたことを覚えていた。さっそくその名盤の写真を探し出してみた。「GRUBB DUBLIN No. 4822」と読める（写真 2）。

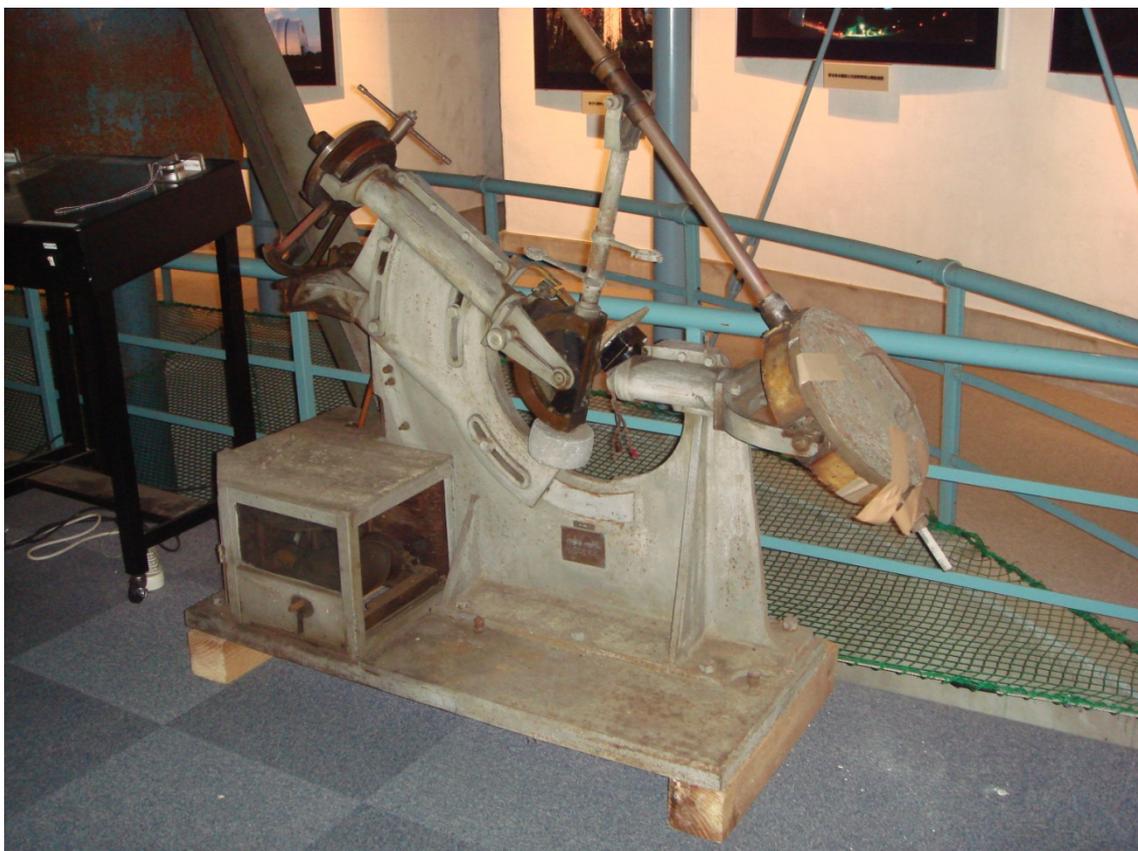


写真 1 筆者が国立天文台歴史館に展示したサイデロスタット

このサイデロスタットは東京天文台時代「オバケ」と呼ばれていた太陽分光写真儀室に設置され、スペクトロヘリオグラフの太陽光を取り入れる装置として使われたもので、その配置図（写真 3）も残っている。この太陽分光写真儀室は東京大学理学部天文学教育研究センターの建物の敷地にあったため取り壊されてしまった。



写真2 サイデロスタットに付いている GRUBB の名盤

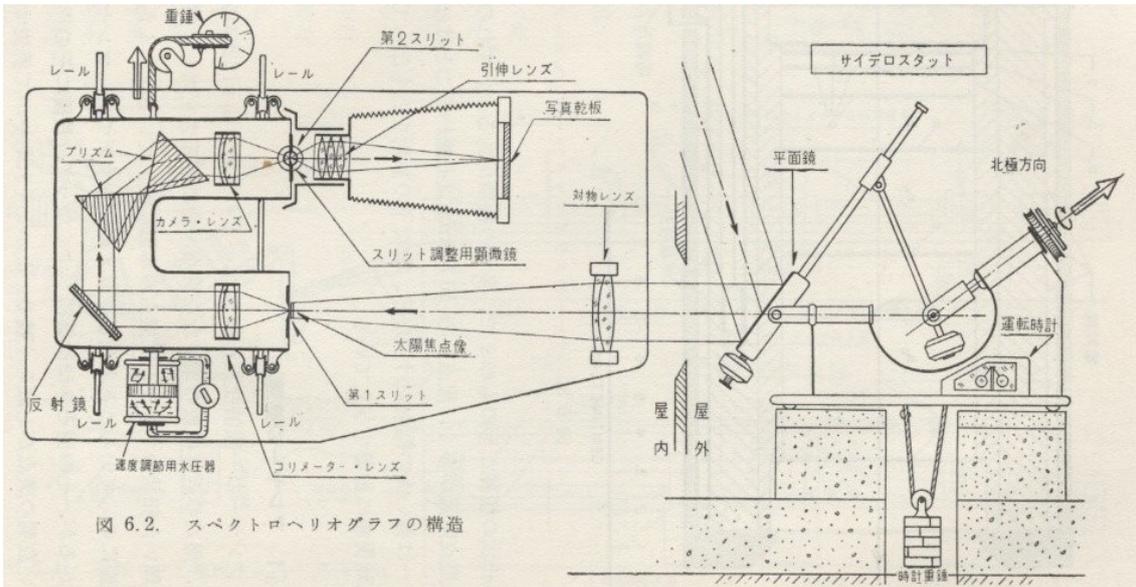


写真3 スペクトロヘリオグラフの構造図

写真3のスペクトロヘリオグラフの対物レンズがアーカイブ室新聞第347号の口径26cmのレンズらしいが確証はないかと探していたところ、サイデロスタットを仮格納していた時の写真(写真4)が見つかり、その中にサイデロスタットとともにこのレンズが写っていたのである。このことからこの口径26cmのレンズはサイデロスタットと一緒に使われていたものということがいえると思われるのである。GRUBBはENGLANDに移る前はDUBLINにあったということ、シリアルナンバーがサイデロスタットがNo. 4822、レンズがNo. 4922ということからもほぼ同じ時代の製品と思われる。



口径 26cm のレンズ

写真4 仮置き時代のサイデロスタットと一緒に写った口径 26cm のレンズ  
天文機器資料館に展示中の口径 26cm のレンズ (写真5) と名盤 (写真6)



写真5



写真6

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)